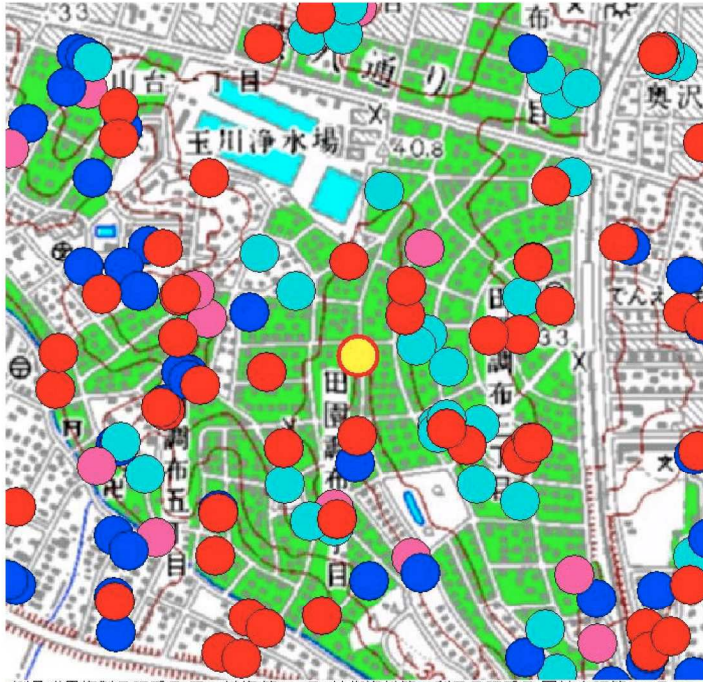


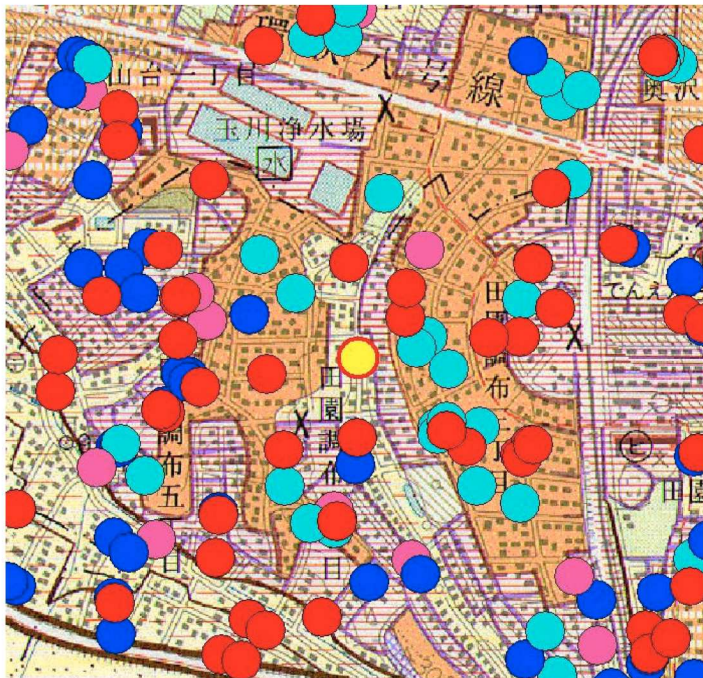
GEODAS 住宅地盤簡易診断書

お施主様: サンプル
対象地: 大田区



測量成果複製承認番号 平18総複第410号・技術資料等の利用承認番号 国地企調第193号 GEC

▲地形図の一辺の距離は約1.25kmです。【提供:ジオテック】



測量成果複製承認番号 平18総複第410号・技術資料等の利用承認番号 国地企調第193号 GEC

▲地形分類図の一辺の距離は約1.25kmです。【提供:ジオテック】

- 地盤調査を行なった結果「良好地盤」と診断された場所
- 地盤調査を行なった結果「軟弱地盤」と診断された場所
- 地盤が軟弱なため「地盤補強工事」をした場所
- ▲ ▼ 「腐植土」が確認された場所
- ◆ ボーリング調査のデータがある場所

注意事項

地点の形状は情報の提供元となる「弊社」と「その他」で区別しています。「良好地盤」「軟弱地盤」の判断基準は、提供元毎に異なります。

▼地形分類図の主な凡例

主な凡例	地形	地盤の特徴
	台地 丘陵地	低地に対する高台で、地盤は比較的良好なことが多い
	造成地	台地・丘陵地と低地の境に位置する。人工的な地盤改変が激しく、地盤の良否は盛土の精度によることが多い。
	斜面	
	盛土	盛土地は、主として、低地に土を盛って造成した土地。自然地形としては「谷地」「後背湿地」「氾濫低地」「海岸低地」などに分類される。低地は河川によって運ばれた泥土が堆積していて、地盤は軟弱であることが多い。
	谷地 氾濫低地	
	自然堤防	砂分の多い土が分布するために、あまり地盤強度が見込めない低地。締った砂・礫層の分布状況によって地盤の良否が決まる。
	砂堆・砂州	

▼ご注意

この診断書は、「住宅地盤情報提供システムGEODAS」の地形分類図と周辺データに基づくもので、あくまで建設予定地の地盤の推測に過ぎません。建設計画初期段階の参考資料としてお役立てください。また一般的な戸建住宅を対象としますので、マンションなど3階建て以上の場合には参考にならないことがありますのでご注意ください。

▼地図について

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1土地条件図、2万5千分の1沿岸土地条件図、数値地図25000(地図画像)及び数値地図25000(地名・公共施設)を複製したものである。(承認番号 平18総複、第410号)」
「このシステムは、国土地理院長の承認を得て、同院の技術資料D-1-No.441「治水地形分類図」を利用し作成したものである。(承認番号 国地企調第193号 平成18年9月11日)」

TNAKAZAWA

■ コメント ■

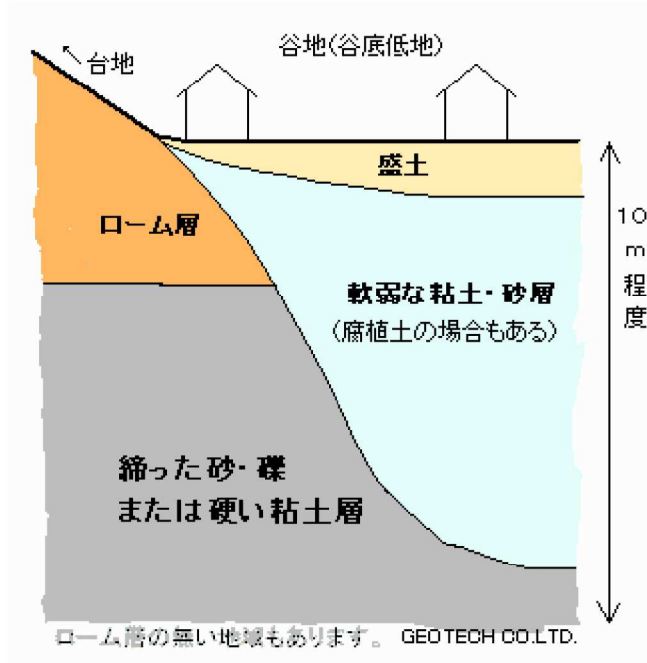
対象地の地形は、土地条件図より「谷地」と判断しました。

台地や丘陵地のくぼみに降水が集中して形成された細い溝が、次第に河川の侵食によって河谷となり、さらに開析が進むと谷底低地となる。上流側から供給された微細な泥土が堆積して軟弱層が分布しているため、かつては水田として利用されることが一般的であったが、近年は盛土造成による宅地化が著しい。

GEODAS 住宅地盤簡易診断書

お施主様: サンプル
対象地: 大田区

対象地はこのような地層構成であると推定されます。
大田区の「谷地」



● 軟弱地盤確率

大田区の「谷地」サンプル数:307

対象地が良好地盤である確率	6.5%
対象地が軟弱地盤である確率	93.5%

良好地盤である場合の主な理由

- 軟弱な粘土砂層が極端に薄い(数十cm)
- 浅い谷地である
- 台地に近い

※ 軟弱地盤確率はジオテックが過去に行った住宅地盤調査(首都圏約30,000件のスウェーデン式サウンディング試験)の考察結果を市区町村別、地形別(13分類)に集計して算出しました。天気予報の降水確率と同じようなものですので、あくまでも住宅地盤を理解する上での参考データとしてお役立てください。
※ 地層構成の図は対象地地形の一般的な例です。各地層の分布範囲、深度、厚さは場所により異なります。また丘陵地などの複雑な地形や斜面の造成地などの場合は、実際と異なることがありますのでご了承ください。

住宅地盤簡易診断書の解説



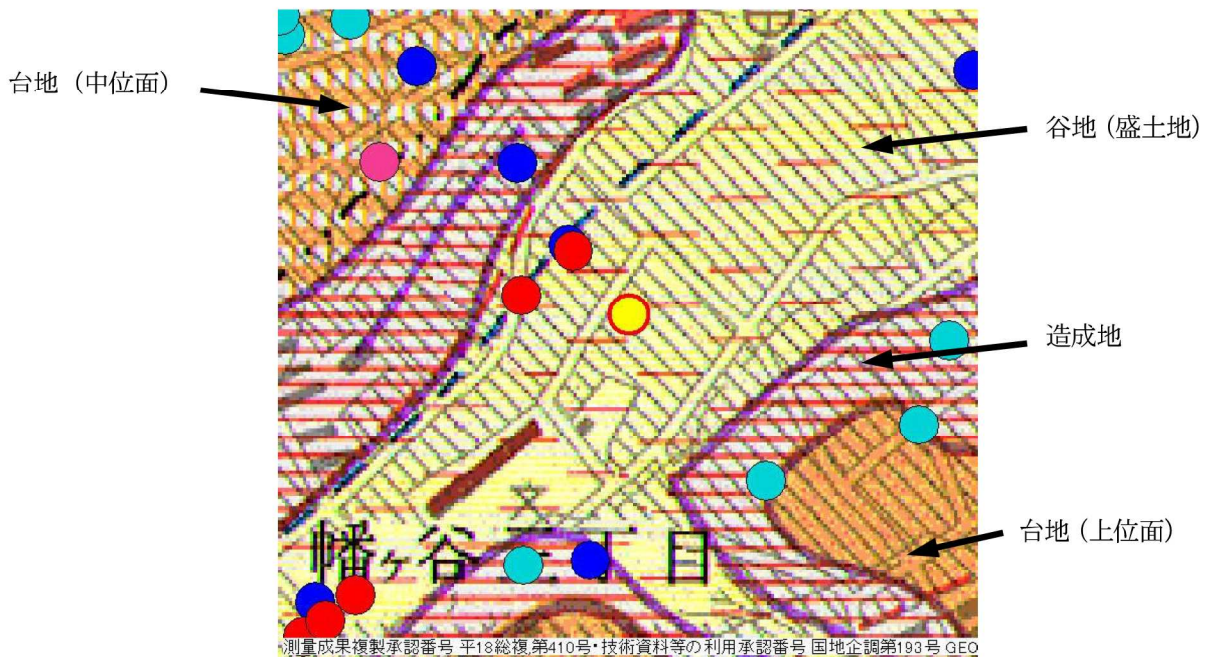
- 戸建住宅の建築を想定した簡易診断です。
- 限られた情報から推測される一般的な見解であることをご了承ください。建築が具体的に計画される際には、地盤調査を実施し、現地の観察と併せて考察することをお勧めします。
- 地図の精度の制約から、検索地の位置を正確に特定できない場合があります。複雑な地形が入り組んでいる地域では、位置のずれが地盤の良否に大きく影響する場合がありますので、検索地の位置についてご不審があれば、住宅地図などに検索地をマークした「案内図」をお送りください。

地形

- 検索地は「谷地（盛土地）」に位置していると推定されます。
当該地は土地条件図を作成する時期に広域的な造成工事が行われていたため地形区分がされていません。

地盤の状態(推定)

- 高台の台地には乾いて締まった地盤が分布していますが、検索地のような谷地には微細な泥土が堆積している上に、周囲から水分が集まってくるために地盤が軟弱化しています。
- 同じ谷筋の既往調査データでは、軟弱層が-7.5mの深度まで分布しているのが確認されたため、地盤補強対策が実施されています。
- このような低地では浅い深度（盛土の下部）に地下水位が観測されることがあります。
※ 沈下対策ばかりでなく防湿対策も重要です。
- 低地を宅地化する際には、かならず盛土造成が行われますが、瓦礫や廃材が投棄されている場合があります。細い鉄筋で地面を突いてみるか、建物の配置にかからない場所を実際に掘るなどして、地中に異物があることが確認されるのであれば、瓦礫を山砂と置換するなどして基礎に瓦礫が接触しないよう配慮することが大事です。
※ 大きな瓦礫が基礎の下で「てこの支点」として作用すると、建物の不同沈下の原因となります。
- 建築に際しては地盤改良などの補強工事を想定した基礎計画が望ましいでしょう。



ジオテック株式会社

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-20-21 広宣ビル3階
Tel:03-5985-8191 Fax:03-5985-5275

住宅地盤相談室

担当 :